



TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup RACE REPORT

TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2025

| Rd.6 | SUZUKA CIRCUIT

Qualifying

2025.10.4SAT

#7 / 3rd / 2'44.291

PRO

●路面コンディション：ウエット ●気温：25℃ 路面温度：28℃



レースウィーク初の雨となった予選は、内圧設定に苦慮したがラストアタックでタイムアップを果たし3番グリッドを獲得

2025年シーズンも残り2戦となり、TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cupのシリーズチャンピオン争いは、佳境を迎えている。第6大会は鈴鹿サーキットで開催され10月4日(土)に予選、5日(日)に8週の決勝レースが行なわれた。

CABANA Racingの堤優威選手は、2025年シーズンの前半で2度のポールポジション獲得し、第3戦のスポーツランドSUGOでは優勝。開幕戦から4戦連続で表彰台に登り、前回の富士スピードウェイ大会を迎えた。専有走行では好タイムをマークしたものの、予選で今季2度目のタイム抹消となってしまう。そのため決勝レースでは、ファステストラップを記録することで得られる1ポイントを実際に取る戦略に切り替えた。堤選手は、決勝レースの3周目にファステストラップを記録し、貴重な1ポイントを獲得。第5大会が終了した時点で、シリーズランキング2位の#88井口卓人選手とは7ポイント差で、ランキングトップを維持した。

第6大会の舞台となるのは、Formula 1やIntercontinental GT Challengeなど多くの国際レースが開催される、日本が世界に誇る「鈴鹿サーキット」。全長が5807mと国内の主要サーキットの中ではもっとも長く、低速から高速までさまざまなコーナーが連続するテクニカルなレイアウトは、国内外の多くのドライバーから愛されている。

今回のレースウィークは、木曜日に走行できる枠が設定されていなかったため、チームは木曜日にサーキットへ入り、週末に向けて準備を始めた。レースウィーク最初の走行は翌日3日(金)となり、この日は午前特別スポーツ走行が1本、午後からタイム計測のある専有走行が行なわれた。13時45分

からプロフェッショナルシリーズの専有走行が始まると、堤選手はニュータイヤを履いてコースイン。予選シミュレーションを実施し、計測1周目に2分25秒703を記録すると、1度ピットに戻る。セッション終盤に再度ニュータイヤで走行を始めると、2度目のアタックでは2分25秒765をマーク。最初のアタックで記録したタイムが自己ベストとなり、トップと僅か0.068秒差の4番手、ブリヂストンタイヤを履くユーザーの中では2番手となった。今大会からライバルとなるダンロップ勢が新たなタイヤを導入してきたが、専有走行の結果はタイム差が拮抗していて、僅かなミスでポジションが大きく変わるワンメイクレースらしい手に汗握る展開となった。

4日(土)は朝から冷たい雨が降り、動かないと肌寒さを感じる気温となった。先に行なわれたクラブマンシリーズの予選時は弱かった雨が、プロフェッショナルシリーズの予選が近づくにつれ、激しさを増していった。今回のレースウィークで初めてのウエットコンディションとなり、各ドライバーはぶっつけ本番でアタックに挑むこととなる。11時50分の予選開始とともに、多くのドライバーがコースイン。堤選手もコースオープンとともに走り始めると、計測1周目に2分46秒812を記録して暫定2番手につける。予選が進むにつれ雨量が増えていったが、全ドライバーが周回を続けて、少しずつタイムを更新していく。堤選手も計測5周目に2分45秒329とベストタイムを更新するが、この時点で7番手に留まる。しかし最後のアタックをミスなくまとめると2分44秒291をマークし、翌日の決勝レースは3番手からスタートすることとなった。



Final

2025.10.5 SUN

#7 / 2nd / 21'12.711 PRO

●路面コンディション：ウエット ●気温：23℃ 路面温度：25℃



3番手からスタートし、チャンピオンを争う井口選手をパスしてシリーズ制覇を手繰り寄せる2位で表彰台に登る

決勝レースが行なわれた5日（日）の気温は、それほど高くないものの湿度があり、かなり蒸し暑くなった。朝は路面が濡れていたものの、クラブマンシリーズの決勝レースが進むにつれ、レコードラインは徐々に乾き始めた。

11時10分にコースオープンとなり、各ドライバーが自身のグリッドに向けて動き出す。今大会でもスタート進行の際に、グリッドウォークが実施され、多くのファンでグリッド上は賑わった。フォーメーションラップ開始5分前になると、グリッドからファンや関係者の退出が始まり、コース上の緊張感が高まる。各マシンが路面状況を確認しながらコースを1周し、34台がグリッドに戻ってくると、8週の決勝レースがスタートした。

スタートから前を狙っていた堤選手だが、トップの3台はそのままの順位で1周目を終える。スタート直後に、4番手以降で激しいバトルがあったため、前の3台が逃げ切るかと思われたが、4番手に上がってきた#293岡本大地選手が堤選手の後方に接近。2番手の#88井口卓人選手と3台での2番手争いとなる。この3選手はシリーズチャンピオンを競っていて、序盤からポジション争いが熾烈となった。レースペースのいい堤選手は、4周目のヘアピンでイン側のラインを通った井

口選手のアウト側に並ぶ。そのまま並走してコーナーを立ち上がった2台は、サイドバイサイドのまま200R通過し、コーナーを最短距離で走れた堤選手が、スプーンカーブ進入で井口選手をオーバーテイクすることに成功し2番手に浮上。5周目に入った時点で、トップを走る#121蒲生尚弥選手とは1.5秒以上の差をつけられていたが、逆バンクでクラッシュが発生したため、セーフティカーが導入される。素早くクラッシュ車両が撤去されたため、7周目からレースが再開されると、抜群のリスタートを決めた堤選手がトップの蒲生選手にプレッシャーをかけていく。堤選手は、3番手以下を突き放していくほどペースがよかったが、雨の予選を圧倒的なタイム差で制した蒲生選手の速さには一歩届かず、2位でチェッカーフラッグを受けた。

今大会は走行本数が限られ難しい週末だったが、事前テストの成果もあり、自信を持って挑むことができた。決勝のペースもよく、シリーズランキングを争う井口選手の前でレースを終えられたことはチーム力の表れでもある。次は最終戦で、11月29-30日に岡山国際サーキットで行なわれる。悲願のシリーズチャンピオン獲得に向けて、万全の準備をしている。



Team Staff & Driver Comment

| **Team Owner** | Hiroshi Ando |

安藤 宏 チームオーナー



今週末も目まぐるしくコースコンディションが変化する、難しいレースウィークとなりました。雨の予選となった土曜日は、トップに立つほどのパフォーマンスがありませんでしたが、終了間際のラストラップを上手くまとめ切ることができ、3番グリッドを獲得できました。決勝レースは路面が乾き始めた難しいコンディションでしたが、好スタートを決めて前の2台にプレッシャーを与え続けてくれて頼もしかったです。レースペースがよ

く、2番手に浮上した直後にSCが導入されるなど、展開にも恵まれました。最後までトップを狙いましたが、チャンスが足りず2位でのフィニッシュとなりました。今週末の堤選手の走りは終始安定しており、安心して見ることができました。最終戦を、ポイントリーダーとして迎えらることをたいへん光栄に思っています。今シーズンの集大成をお見せするためにも、チーム一丸となって万全の準備と心構えで岡山に臨みます。

| **Driver** | Yuui Tsutsumi | #7 CABANA BS GR86 |

堤 優威 選手



今回のレースウィークは走行本数が少なかったですが、事前のテストでタイヤの内圧やセットアップに関しては決まっていたので不安はありませんでした。専有走行では全体で4番手、ブリヂストン勢でも2番手のタイムが出ていましたし、新しいタイヤを導入したダンロップ勢ともほとんど差がなかったため、ドライなら問題ないと思っていました。予選は予報通り雨になりましたが、雨でも自信はありました。ですが、内圧がセットアップ

が合っていなかったのか、トップとは1秒以上の差がありましたが、その苦しい状況でも3番手を獲得できたことは良かったです。決勝レースはペースがよかったので、シリーズランキングを争う井口選手の前でゴールできて、結果的には望んだ展開になりました。チャンピオンがかかった最終戦になりますが、いつものレースができれば結果はついてくると思うので、ミスやトラブルがないようにしたいです。

| **Chief Engineer** | Noboru Yamazaki |

山崎 登 チーフエンジニア



レースウィークの走行本数が少ないことは前から把握していたので、事前テストをしっかりと行ないました。そこでセットアップを煮詰められたので、持ち込みセットも決まっています、安心してレースに挑めました。ウェットコンディションもある程度は走れていたため、そこまで心配はしていませんでしたが、スピードが足りなかったです。今回はシリーズポイントのことを考えて、優勝できなくてもランキング2位の井口選手と、同じよ

うな位置でレースを終えることを最大の目標としていました。結果的には、その井口選手の前でチェッカーを受けることができたので、目標を達成できて良い週末になりました。次の最終戦も、いかにシリーズを争うライバルたちの近くでゴールできるかが重要になってくると思います。事前テストやマシンのメンテナンスをしっかりと行ない、取りこぼしがないように準備していきます。



CABANA
RACING